

# 鶴田町行政推進員と町との意見

～地域の **声** を町へ～



鶴田町行政推進員と町との意見交換会

皆さんの声が活力ある町をつくります。

4月27日(金)、国際交流会館ホールで『鶴田町行政推進員と町との意見交換会』が開催されました。出席した行政推進員の皆さんは、地区住民の声を代弁してさまざまな意見や要望を町に伝えていました。それでは、意見交換会の内容の一部をご紹介します。

## Q 〔属原〕

町の人口対策として、若い人達の合コンを開催してはどうか。

(総務課長)

A 人口減少に歯止めをかける意味では、ご提案の内容も有効な手段の一つではないかと思えます。今後、関係団体等と連携をとりながら、開催方法等について協議し、イベントに加えるなど実現に向け検討してまいります。

## Q 〔鶴寿団地〕

原燃関連の交付金は、当町にどのように配分され、交付されているのか。

(総務課長)

A 原燃関連の交付金は、電気事業連合会並びに日本原燃株式会社より六ヶ所村等原子力関連施設の周辺市町村を除き、平成6年度から平成25年度まで20年間、県内市町村に一律に、2億8900万円が交付されており、文化センターなど施設整備や環境整備、産業振興に充当されています。

## Q 〔山道〕

10年後の地域のあるべき姿を模索した地域づくり活動を進めていきたいので、「コミュニティづくり」に活用できるいろいろな補助事業について、事業名、主な事業内容等の一覧でもあれば助かります。

(総務課長)

A 各町内会単位で助成を受けられることができる補助事業としては、一般コミュニティ助成事業と青少年健全育成事業の2つがあります。これこれという個別の事業要件は示されていないので、町では毎年11月頃に広報に掲載して要望を受けています。事業を希望される場合は、その内容等を総務課までちづくり班までお問い合わせいただければ、対応しております。

## Q 〔山道〕

自主防災組織作りを早急に進めていきたいので、これに関連して今後、避難場所となる文化センターへ防災グッズを整備するための助成をしていただきたい。



(総務課長)

A 当町の自主防災組織については、4月1日現在で1町内会しかなく、山道地区が前向きに組織作りを考えていることは他の町内にも波及していただけるものと期待しております。防災グッズの要望につきましては、同一の内容となる防災グッズの組み合わせを検討中であり、少し時間をいただきたいと思えます。また、他の町内会におきましても自主防災組織を立ち上げていただきますようこの場をお借りしましてお願い申し上げます。

## Q 〔みどり町〕

この件については、これまで要望してきておりますが、融雪溝の新設を是非ご検討いただくとお願いいたします。



**A** (建設整備課長)  
みどり町の融雪溝計画でございませぬが、みどり第三住宅団地を除いたみどり町全エリアについて整備すると融雪溝の整備延長は延べ約6kmとなり、送水管や中継ポンプなどの施設整備費等を含めますと概算工事費は約5億5千万円の事業費が必要となります。このことから、町全体の事業計画との整合性を図りながら、中・長期計画を立ててなるべく早い時期にご要望にお応えできるようにしてまいります。

**Q** 【鶴寿団地】  
放射能の大气中の濃度、雪や雨に含まれている基準濃度、また雪が溶けたときの田畑の土壌や水の濃度など、鶴田町はどうなのか。

**A** (産業観光課長)  
人は、地球上ではどこに住

んでいても、年間平均2・4ミリシーベルトの自然放射線にさらされているとのこと。大気中の放射線量については、文部科学省で行っている五所川原市の観測点では、1時間当たり0・039ミリシーベルトとなっており、年計算にすると0・34164ミリシーベルトとなり、安心できる数値であると思えます。

このように、大気中の濃度が極めて低いことからすると、雪や雨、それに伴う土壌についても限りなく低いことが推測されます。農地に関しては、放射性セシウム濃度が1kg当たり50000ベクレルを超えると作付けできませんが、新聞報道等によりますと超えているのは福島県のみとのこと。ちなみに、土壌については、青森市(浪岡)、水道水については津軽広域水道事業団浄水場においても検査測定しておりますが、いずれも不検出となっております。

**Q** 【鶴寿団地】  
つがる西北五広域連合鶴田病院の医師、医療機器、配備等ほどのような状況にあるか。

**A** (鶴田病院事務長)  
鶴田病院の今後の状況については、平成24年度の9月末までと10月以降で診療体制がかなり変わりますので、2つに分けて説明したいと思います。

まず、9月末までの医師数については、昨年度と同様で、常勤の

医師は、内科が2人、外科が1人、小児科の嘱託医が1人の合計4人の体制です。この他に糖尿病専門外来と眼科が週1回、整形外科が週3回、リハビリが週2回となっています。昨年度と変わったところはリハビリが週1回少なくなつたことと、広域連合全体で土曜日が休診となったため、眼科が土曜日の午前から第1・3・5週の木曜日、第2・4週の金曜日のいずれも午後に変更になっております。医療機器については昨年度と変更はございません。

また、4階の療養病棟を廃止して3階を混合病棟とし、病床数を100床から50床に削減しています。なお、医師以外の職員については、病床数が削減されたことから、退職に伴う看護師を8人減としていますが、それ以外の職員については昨年度と同様です。

次に10月以降の体制についてご説明いたします。10月1日から鶴田病院は無床の鶴田診療所になります。常勤の内科医師が1人、午前中だけの内科医師が1人となり、常勤換算で医師数は1・5人となります。この他に糖尿病専門外来と眼科がそれぞれ週1回、小児科・外科・整形外科についても連合で大学の方に継続のお願いをしている段階です。医療機器については、診療所の開業にあわせて最新の機器に更新する予定となっています。一般X線撮影は天井走行式の広範な移動式で幅広い検査に対応できる機種に更新する予定

です。また、X線テレビは高速・高精細デジタル画像で多目的検査の領域を可能とする機種に更新する予定です。CTは現在4列(1回で4か所の角度からの画像撮影)ですが、検討している機種は64列(1回で64か所の角度からの画像撮影)で時間の短縮により患者への負担軽減を図ることができると最新の機種を導入を予定しています。現在、西北中央病院ではCTの撮影が1か月待ちの状況が続いているため、当診療所でも対応する方向で検討しています。

鶴田病院については、つがる西北五広域全体の医療機能再編計画の中で無床の診療所として位置づけられております。外来機能の維持、充実に向けてまいりますので、ご理解と協力をお願いいたします。

平成24年度	鶴田町行政推進員
(4月27日現在)	
派立	赤原俊一
寺町	太田聰
仲町	高嶋博由
本町	高嶋博由
駅前通り	高嶋博由
田中町	花田直造
桜田町	松山久志

松倉	横瀬	西瀬	東瀬	稲元	米元	掛元	後野	前野	鶴寿団地	木筒	間山	野木	田尻	尾原	稲川	桂井	山中	中野	胡境	強巻	大巻	新田	亀田	鶴田	菖蒲	大性	駅東	あさひ	みどり	相原	鷹ノ尾	文化	公園	富士
三戸	菊池	蒔苗	高橋	八木	中西	天坂	棟方	川村	木村	長尾	乗田	花岡	須藤	笹野	須藤	中野	山郷	松山	須藤	成田	奥瀬	坂本	齋藤	鶴田	佐藤	三浦	小宮	宮本	工藤	三野	中野	澤田	松江	伊藤
宗則	章弘	一政	正勝	喜代	鐵榮	良勝	則行	廣光	金四郎	敏夫	精逸	勝雄	哲昌	清博	繁喜	権秋	謙壽	信一	和男	良八	保文	勝正	春義	源悦	良一郎	常義	行雄	央史	昭宏	正義弘	正明	正義男	昭造	伊藤二